東日本大震災被災地応援部門　たより

轍わだち

２０２５．１２．１１　NO．１８２

青森で震度６強　北海道・東北で津波観測

12 月 8 日午後 11 時 15 分、青森県東方沖（とうほうおき）を震源とする地震があり、同県八戸市で震度 6 強、おいらせ町と階上（はしかみ）町で震度 6 弱の揺れを観測した。震源の深さは 54 キロ、地震の規模はマグニチュード 7．5 と推定される。同県や北海道、岩手県によると、計 50 人以上がけがをしたと報告された。

地震の影響で陥没した道路

この地震は 2011 年の東日本大震災の本震（M9．0）と同様に、陸側プレートと海側プレートの境界で発生。気象庁は新たな大地震が発生する可能性が平常時より高まったとして、9 日午前 2 時に「北海道・三陸沖後発地震注意情報」を 22 年 12 月の運用開始以来、初めて発表した。

北海道から千葉県の太平洋沿岸など 182 市町村では今後 1 週間、大きな揺れや津波警報を受けて速やかに避難できる態勢が求められる。この情報は昨年 8 月に初めて発表された「巨大地震注意」の南海トラフ地震臨時情報に似ており、政府は事前の避難や交通機関の運休、学校の休校は必要ないとしている。

はがれた八戸線の高架橋の支柱

地震後に発生した火災

倒壊した八坂神社の鳥居

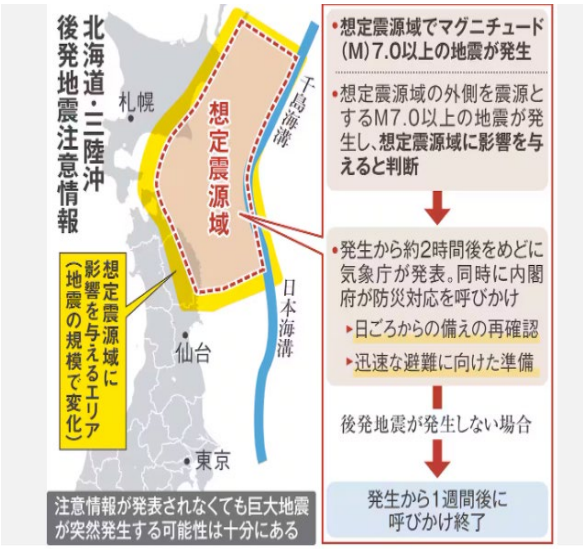
気象庁は、北海道と東北地方の太平洋沿岸などに一時津波警報や注意報を発令。岩手県久慈市で 70 センチ、北海道浦河町で 50 センチ、青森県六ケ所村や八戸市で 40 センチなど、各地で津波が観測された。青森県や北海道などによると、同県東北町の青い森鉄道・乙供駅近くで国道が陥没して男性 1 人がけがをしたほか、青森市で起きた住宅火災で男性（65）がやけどを負った。北海道日高町では 70 代女性が避難所の駐車場で転倒し腕を骨折する重傷を負った。東北電力ネットワークによると、青森、岩手県で一時約 4200 軒が停電した。

原子力規制庁によると、東北電力東通原発（青森県）、女川原発（宮城県）、北海道電力泊原発（北海道）は地震による異常はない。日本原燃は使用済み核燃料再処理工場（青森県）の貯蔵プールから水が約 650 リットルあふれたことを確認したが、環境への影響はないという。

（時事通信 12 月 8 日　速報記事より）

北海道・三陸沖地震を受けて、再び浮かび上がる「冬の災害」の現実

いよいよ師走となり、12 月号の記事を何にしようかと思案していた 8 日未明、三陸沖を震源とする地震が発生しました。 北海道・東北地方の広い範囲で揺れが観測され、津波警報も即座に発令。不安な夜を過ごされた方も多かったことと思います。幸いにも大きな被害は報告されていませんが、真冬の夜に突然襲ってくる地震の恐ろしさを、関西に住む私たちも改めて実感しました。



「産経新聞」 12 月 9 日 02:03 配信

この出来事は、ちょうど 30 年前の 1994 年 12 月 28 日に発生した三陸はるか沖地震を思い起こさせます。あのときも、冬の夜間に強い揺れが広範囲を襲い、「寒さ」と「交通の寸断」という二重の困難が被災地を苦しめました。今回の地震は、あの記憶を呼び覚まし、「冬に強い備え」の必要性を再認識させるものとなりました。

では今、私たちにできることとは？今回の地震を機に、次のような視点を持って備えを見直してみましょう。

其の一　暖房手段の多様化 電気が止まっても使えるカセットコンロや石油ストーブ、使い捨てカイロなどの備蓄を確認しておきましょう。

其の二　水と食料の冬仕様備蓄 凍結しにくい保存水や、温めずに食べられる非常食を準備しておくことが大切です。

其の三　地域とのつながり 雪や凍結で孤立する可能性を考え、近隣との連絡手段や助け合いの体制を整えておきましょう。（関西といえど、冷えは大敵です ）

おせちと缶詰に学ぶ備蓄術

おせち料理には保存性や栄養の工夫が詰まっており、災害時の備蓄にも通じる知恵があります。黒豆や数の子、栗きんとんなどは長期保存が可能で、現代の缶詰やレトルト食品にもその工夫が活かされています。火を使わずに食べられる食品や水の備蓄、保存場所の整理、ローリングストックの実践など、お正月準備を機に見直してみるのはいかがでしょうか。ご家族がそろう正月を前に、伝統と現代の工夫を組み合わせ、冬の災害にも安心な食の備えにも、ちょっと一工夫を…。